

第3回 アクティブステージ研修

令和4年11月21日(月)

実技研修「子どもの感覚に響く身体表現遊び」

講師 帝塚山大学 教授 岡澤 哲子氏

感覚は、脳の栄養素。私たちの脳は、感覚を遮断されると正常な判断が出来なくなる。適切な種類の刺激を適切な量を受け取ることが脳には必要である。私たちは、周囲の感覚情報の中から必要な情報は抜き出して、不要な情報には注意を向けないように整理している。感覚入力には、交通整理が必要である。無意識のうちに自分の身体の動きや周囲の状況をこれらの感覚を通して把握し、その場に応じた感覚の調整や力加減ができるようになる。五感(視覚・聴覚・味覚・触覚・臭覚)は、自覚しやすい。固有受容覚、前庭覚(平衡感覚)は、私たちが自覚しにくい感覚である。

固有覚・・・筋肉や腱、関節などで感知する。

手足の位置の情報を脳に伝え、力加減やのバランス、体幹、自己存在感に関係する。

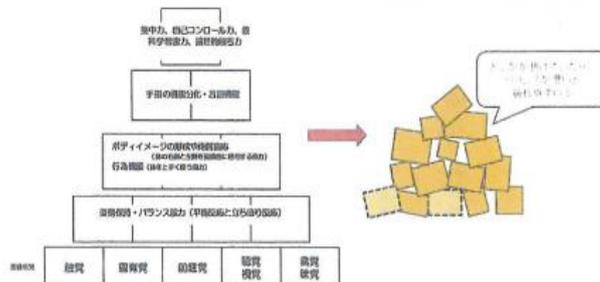
前庭覚・・・回転、加速、傾き、重力、揺れなどを耳の奥にある耳石器と三半規管で感知する。

覚醒レベルの調節、姿勢調整、眼球運動、情緒の安定、目の動き、空間認知に関係する。

感覚統合療法 (Sensory Integration Approach)

- ①脳に入ってくる様々な感覚情報を、目的に応じて分類・整理する脳の働きに着眼した治療法・リハビリテーション
- ②アメリカの作業療法士のエアーズ博士(Ayres,A.J.)が学習障害児(LD)のための治療法として開発
- ③子どもの感覚統合の発達段階を土台となる基礎感覚の上に4段階で表します。

感覚統合はピラミッドのように発達する

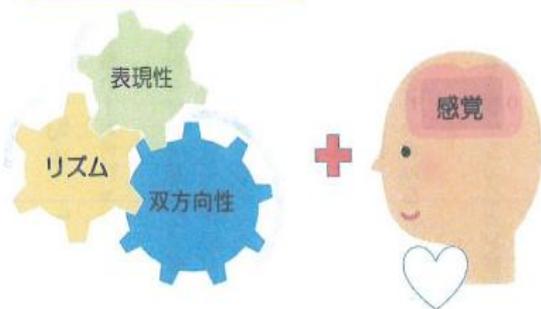


感覚統合がうまくいかないとうなるのか

感覚統合が十分に行われていない、感覚統合機能不全(感覚統合障害)の状態は情緒面、対人面、学習面、言語面など様々な場面で困ったことが起こる

どの子どもにも
感覚に響く遊び
を意識しよう!!

身体表現遊びの3要素



◇ 感覚を意識して遊ぶ ◇

● 手指を使って…(視覚・聴覚・前庭感覚・固有覚)

「今、何時?」「チクタク チクタク今何時」

- ・指先の感覚を刺激しながら遊ぶ。
- ・瞬時に自身の指先に神経を集中させる。



● スズランテープを使って…①(触覚)

宇宙人になって散歩

- ・子どもたちが小道具を持ってイメージを広げ、なりきって遊ぶ。
- ・静電気を使って遊ぶ。

● お手玉を使って…(前庭覚・固有覚・視覚・聴覚)

「さよならあんころもち またきなこ」「パクリ」

- ・お手玉の感触を味わいながら遊ぶ。
- ・リズムを感じながら手先や全身を使って遊ぶ。

● スズランテープを使って…②(触覚・前庭覚・固有覚)

- ★(わらべ歌)「おひさん おひさん そっち
ぱっかりて～らんと こっちももっと
てってんか かわらのやけいし みんなと～」



最後に…「手のひらを太陽に」で歌い、踊る
(聴覚・視覚・前庭覚・固有覚)

● 短縄を使って…①(前庭覚・固有覚)

縄を自分の体の真ん中に置いて、体の右、左を感じながら♪バナナくん体操♪を踊ってみよう!

☆運動ということより、感覚を意識すること。言葉と自分の体が同じように動く、声のかけ方も大事。

● 短縄を使って…②(視覚)

短縄をつなげて長縄にして、跳びながら、カードを見て何がかけられているか当てるゲーム。

☆跳びながら視覚を使う。

“～しながら、～する”2つの感覚を同時に意識して動く。

【参加者の声・気付き】

- ・ 身体表現遊びと聞くと、特別なことをしないといけないと構えてしまっていたが、研修を通して短時間で身近なものを使い楽しむことが分かった。普段から何気なくしている遊びにこそ、子どもたちの感覚を刺激するような動きが様々あることがわかり、それぞれの遊びがどの感覚とかかわっているかを意識していきたいと思った。
- ・ 身体表現遊びは苦手と思っていたのですが、身近にあるものでなりきって遊び、体を動かすことも表現遊びとして楽しむことを知ったため、保育の中でも子ども達と楽しんでいけたらと思いました。特に、紙テープを使ったお風呂の遊びは展開しながら遊びを楽しむ内容だったため、取り入れたいと思います。
- ・ 自覚しやすい感覚だけでなく、自覚しにくい感覚(固有覚、前庭覚)を意識した遊びを取り入れることが、感覚統合を安定させるために大切だということを学び、これから日々の保育に活かしていきたいと思いました。